

支えよう、雪のまち札幌

ひと冬で6メートルもの雪が降り、毎年市民から多くの要望が寄せられる札幌の「雪対策」。その雪対策の今後10年間の計画を定めた「冬のみちづくりプラン」をこのたび策定しました。今回の特集では、このプランの内容を紹介しながら、雪のまち札幌で行政と市民が果たす役割について、皆さんと一緒に考えます。



この特集に関するお問い合わせは
雪対策室計画課 ☎211-2682

現状

●基本は除雪と排雪

市の雪対策には、大きく分けて「除雪」と「排雪」の作業があります。市内39カ所の除雪センターで、除雪事業者が24時間体制で作業を行っています。



除雪

10センチ程度の降雪を目安に除雪車が出動し、道路上の雪を左右にかき分けます。

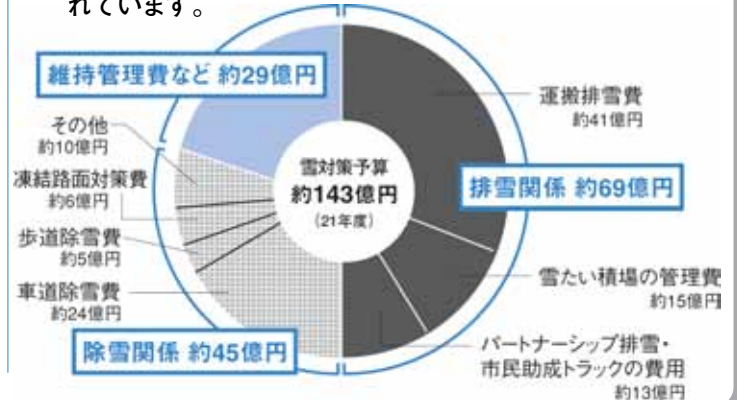


排雪

たまった雪を雪たい積場へ運ぶ作業。幹線道路を中心に、年1回実施します。

●雪対策予算は年間約143億円

除雪は1㎡当たり約3万円、排雪はその約80倍の240万円もの費用が掛かります。これら除排雪などの雪対策予算として、1年間で約143億円が充てられています。



課題

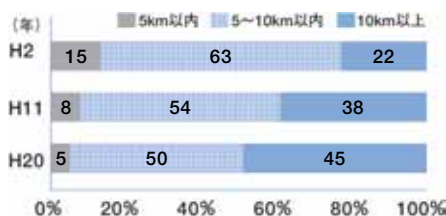
●ルールが守られない



スムーズな除排雪作業を妨げる、悪質な雪出しや路上駐車が後を絶ちません。こうした行動が、作業の遅延や経費の増大などを招いています。

●雪たい積場が遠くなる

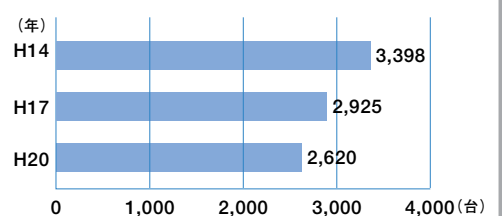
■雪たい積場の都心部からの距離別割合の推移



雪たい積場では、ひと冬で大型ダンプ約130万台分の雪を受け入れています。近年、市街地で広大な土地を確保しにくいいため、郊外化が進み、運搬経費が増大しています。

●担い手や機械が減っている

■札幌地区トラック協会の調べによるダンプ台数の推移



景気低迷の影響などで、除排雪作業の主な担い手である建設業者が減少。ダンプトラックをはじめ、除排雪機械の更新や確保が難しい状況になっています。

厳しい状況に対応するため、新しい雪対策の計画が必要に